

海陸統合調査による東南海・南海地震震源域付近の深部構造

Deep seismic transect across the Tonankai-Nankai earthquake area obtained from the onshore-offshore wide-angle seismic study

仲西 理子 [1]; 小平 秀一 [2]; 三浦 誠一 [3]; 伊藤 亜妃 [4]; 佐藤 壮 [2]; 朴 進午 [5]; 金田 義行 [6]; 伊藤 潔 [7]; 梅田 康弘 [8]; 廣瀬 一聖 [7]; 伊藤 谷生 [9]; 佐藤 比呂志 [10]; 平田 直 [10]; 阿部 進 [11]; 川中 卓 [12]; 井川 猛 [13]

Ayako Nakanishi[1]; Shuichi Kodaira[2]; Seiichi Miura[3]; Aki Ito[4]; Takeshi Sato[2]; Jin-Oh Park[5]; Yoshiyuki Kaneda[6]; Kiyoshi Ito[7]; Yasuhiro Umeda[8]; Issei Hirose[7]; Tanio Ito[9]; Hiroshi Sato[10]; Naoshi Hirata[10]; Susumu Abe[11]; Taku Kawanaka[12]; Takeshi Ikawa[13]

[1] 海洋研究開発機構; [2] 海洋機構 地球内部変動研究センター; [3] 海洋機構; [4] JAMSTEC; [5] 東大海洋研・国際センター; [6] 海洋機構; [7] 京大・防災研; [8] 京大・防災研; [9] 千葉大・理・地球科学; [10] 東大・地震研; [11] 地科研; [12] 地科研; [13] ジオシス

[1] IFREE, JAMSTEC; [2] IFREE, JAMSTEC; [3] JAMSTEC; [4] IFREE, JAMSTEC; [5] The University of Tokyo, ORI, CIC; [6] JAMSTEC,IFREE,DONET; [7] DPRI, Kyoto Univ.; [8] DPRI Kyoto Univ.; [9] Dept. Earth Sciences, Fac. Sci., Chiba Univ.; [10] ERI, Univ. Tokyo; [11] JGI, Inc.; [12] JGI; [13] GEOSYS

南海トラフにおける M8 クラスの巨大地震の震源域は、南海地震震源域、東南海地震震源域、想定東海地震震源域に大きく3分される。この3つにセグメント化された震源域の中で、南海地震および東南海地震の震源域は紀伊半島沖を境界としてたびたび連動して巨大地震を引き起こしている。また、これらの巨大地震の震源は常に紀伊半島潮岬沖にあり、破壊はそこから東西に伝播していることがわかってきた(たとえば Hori et al., 2004)。南海トラフを代表する巨大地震の破壊域のセグメント境界でもあり、破壊の開始点でもある紀伊半島沖の深部構造を把握するため、海陸統合調査が実施された。ここではその結果を報告する。本研究における海域調査は、文部科学省から受託している「東南海、南海地震の想定震源域におけるプレート形状等を把握するための構造研究」として実施した。陸域の調査は、京都大学による大大特の大都市圏地殻構造調査(近畿圏地殻構造探査)によるものである。